

保健室便り

エボラ出血熱 (Ebola Virus Disease)

No.96 2019年7月25日

WHOは、エボラ出血熱の感染がコンゴ民主共和国のギブ州の州都までおよんだことを受けて「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC)」に該当すると宣言しました。



夏期休暇中にアフリカ方面へ渡航予定のある方々は十分ご注意ください。

これまでにエボラ出血熱の感染があった国・地域

コンゴ民主共和国、スーダン、ウガンダ、ガボンやアフリカ西部のギニア、リベリア、シエラレオネ、マリ、ナイジェリア、コートジボワール

2018年8月以降はコンゴ民主共和国の北ギブ州、およびイツリ州においてアウトブレイクが続いており、2019年6月には隣国ウガンダ共和国のカセセ県でも患者が確認されました。

病原体

エボラウイルス

感染経路

感染した人の体液など（血液、分泌物、吐物、排泄物）に触れることによる感染。

感染したサルなどの動物の血液、分泌液、排泄物、唾液などの接触でも感染する。

コウモリが自然宿主と考えられているため、感染地域の洞窟に入ることは、感染リスクがある。

潜伏期間

2～21日（平均1週間）

症状

突発的に発症する。発熱、倦怠感、食欲低下、頭痛などがあり、その後嘔吐、下痢などの消化器症状がみられる。重要化すると神経症状、出血症状、血圧低下などがみられ死亡する。

致死率はウイルスによって異なるが、80-90%と報告されている。

治療

対症療法のみ。

予防

ワクチンは未承認です。感染地域への渡航は控える。患者や動物の体液などに触れない、生肉を食べない。洞窟に入らない。

➤ 以下のホームページを参考にしてください。

厚生労働省検疫所ホームページ

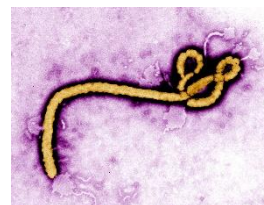
「エボラウイルス病ーコンゴ民主共和国（更新30）」

<https://www.forth.go.jp/topics/20190724.html>

外務省海外安全ホームページ

「コンゴ民主共和国及びウガンダ共和国におけるエボラ出血熱の発生」

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2019T056.html#ad-image-0



健康に関する疑問、質問は保健室までお問い合わせください。

桃山学院大学 学生支援課 保健室